



学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思えます。  
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合っしてほしいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。  
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思えます。  
よろしくお願いいたします。

## ★資料名

「心に通じた「どうぞ」のひとこと」

## ★今回の道徳の授業のねらい

相手の立場に立って思いやりの心を持ち、親切にしようとする心情を育てます。

## ★お話のあらすじや内容について

土曜日の午後、母のおつかいで出かけた電車内でのこと、自分の前におじいさんが立ちます。とっさに席を譲らなくてはいけないと思いつつも、きっかけがつかめず、席を立ったものの「どうぞ」と言えません。いつの間にかその座席には、ほかの人が座ってしまいます。そこで主人公は、自責の念にかられますが、おじいさんにお礼を言われ、「ありがとう」の言葉をかみしめる、という話です。

## ★児童のふり返り

- ◎5年生の時に6年生にサッカーを教えてもらい親切にしてもらいました。親切にされると心が温かくなるなあと思いました。
- ◎ぼくはこの勉強をして、毎日友達に親切にしてもらっているんだなあと思いました。プリントで分からない時、みんなが教えてくれました。次はぼくがお返しをしたいと思います。
- ◎今日の授業で人に優しくして感謝をされたら、自分も相手もうれしくなると分かりました。ぼくがもし電車に乗っていて、ぼくの前にお年寄りが立っていたら、勇気を出して「どうぞすわってください」と言いたいです。どんな気持ちになるのか楽しみです。
- ◎おじいさんは家に帰り、「今日電車で優しい子がいたんだよ」「人の心って温かいなあ」と家族と話をしていると思えます。

## ★家庭で話し合っしてほしいこと

他人の痛みがわかり、相手の立場になってやさしく親切にすることは、人間関係の基盤になります。日ごろの生活の中でもわずかな心づかいで、周りを明るくして、豊かな人間関係をつくることができます。ちょっとしたことでもよいので、お子さんが相手のことを考え、やさしくできたことがありましたら、しっかりと褒めてあげ、認めてあげて下さい。また、ご家庭でも、思いやりの心についても話し合っただきたいと思えます。

